



すべての難病者の生活の質の向上に向け
～夢をあきらめない～

15周年のごあいさつ

沖縄県難病相談支援センター
アンビシャス

理事長 迫 幸治

Sako Yukiharu



アンビシャスは平成14年2月にNPO法人として発足し、今年2月で法人設立15周年の節目を迎えることができました。これもひとえに関係のみな様の多大なるご支援、ご指導のおかげと心より感謝申し上げます。

アンビシャスでは発足以来、難病の方やそのご家族及び関係者を対象として難病情報誌『アンビシャス』を毎月発行してまいりました。誌面では「難病の方自身の体験談」を中心に幅広く難病情報や患者会情報等を取り上げ、沖縄県内の難病者のみならず、広く県外の方にも

ご愛読いただいている情報誌となっております。

平成17年に沖縄県からの沖縄県難病相談・支援センター受託、平成21年、県内初の認定NPOとして認可。そして平成27年1月より待望の「難病法」施行と、その節目、節目で、有用な情報を提供できたと自負しています。

この度、法人設立15周年を記念して、『会報誌別冊15周年記念号』を発行する運びとなりました。設立から15年に渡り、難病情報誌「アンビシャス」の毎月発行が継続できたのも、沖縄県をはじめ数多くの企業や情熱のある個人の皆様からのご支援があつてのことと、改めて深く感謝申し上げます。

私どもはこの「難病情報誌」をはじめ、難病の方に関係する全ての支援事業の推進に当たり、これまで以上にスタッフ一丸となり取り組んでまいります。

今後ともなお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

沖縄県難病相談支援センター
アンビシャス

副理事長 照喜名 通

Terukina Toorn



平素は、難病事業に関する関心とご高配を賜り、深く感謝申し上げます。副理事長として、皆さまに御挨拶申し上げます。

クローン病という難病を抱えた自分でも何か人の役立つことがしたいと、難病センター構想を練り、ライオンズクラブで現理事長の迫さんと出会い、平成14年にアンビシャスは生まれました。あれから15年。

人間でいえば未だ中学生なので、多くの方々を支えるには規模も能力も不足しています。反抗期なのか個人的に意欲も低下している場面もあり、皆さまに

お叱りを受けている状態であります。

初心に返り、単なる企業法人では無く、NPO法人としての使命を貫き、常に真摯にあきらめお役に立てるように一歩一歩前進してまいります。

また、私自ら難病患者であるのですが、長く支援者として活動していると患者の立場にたった視点を忘れてしまいます。

その方の立場や境遇を深く感じ取れるよう心掛けていきます。ここまで来られたのも一重に応援してくれた方、ご寄付を浄財してくれた方、ボランティアをしてくれた方、見放さないうで叱咤激励してくれた方、県の方、保健所の方、医療関係の方、つたない上司についてきてくれているスタッフ、そして家で支えてくれている家族に感謝申し上げます。

これからも、理事の協力とスタッフの力を合わせ、難病を持つ方、支える方の役立つ組織として頑張りますので、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

御祝辞

沖縄県保健医療部薬務疾病対策課

課長 玉城 宏幸

このたびは、認定NPO法人アンビシヤスが設立されて15周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

難病に關しましては、昭和47年に難病対策要綱の策定により医療費助成事業が開始され、その後平成27年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」の施行により大きな転換期を迎えました。対象疾患は306疾患が指定され、疾患の拡大に伴い様々なニーズへの対応や療養生活を支える総合的対策を進めることが求められております。

貴センターにおかれましては、難病の患者及びその家族はもとより、離島を含めた県内各地の関係機関に対し、きめ細かな相談対応を行っておられます。また、広報誌によ

り県内外の難病に關する各種取組の紹介の他、難病患者さんの声を読者に届けるなど難病に對する関心を高め、地域で尊厳を持って生きることでできる社会構築に向けて重要な役割を果たしておられます。今後とも、難病に關する様々な支援活動を提供し、難病患者の生活の質の向上に貢献して頂きますよう期待申し上げます。

結びに、認定NPO法人アンビシヤスの今後ますますの御発展と、職員及び関係者の皆様方のお一層の御活躍を祈念申し上げます。お祝いのあいさつと致します。

独立行政法人国立病院機構沖縄病院脳・神経・筋疾患研究センター

センター長 諏訪園 秀吾

設立15周年、誠におめでとうございます。

私は独立行政法人国立病院機構沖縄病院脳・神経・筋疾患研究センターのセンター長を勤めさせていただいております。諏訪園秀吾と申します。

当院は、沖縄県で唯一の難病医療拠点病院に指定されており、県主催の「難病医療連絡協議会」という組織で、アンビシヤスと連携しつつ、難病患者さんの相談事業や、重症難病患者さんの入院施設確保事業などを行っております。

副理事長の照喜名通さんはその協議会のメンバーでもあり、会議でいつも難病患者さんがどのようなしたらよりよい療養ができるかについて議論させていただいています。さらに、「えんぼー」とい

うインターネット上に難病患者さんがよりよく療養できるための情報共有のサイトを構築し運営する過程を一緒にやらせていただいています。難病療養の災害対策については沖縄で彼の右に出る実績と知識のある人はおらず、名実ともにアンビシヤスなしでは沖縄県の難病医療は成り立たないと思います。

これからも、当院とアンビシヤスとは連携を強化しながら、沖縄県の難病患者さんたちのために活動を継続していくものと思います。アンビシヤスのますますのご発展と難病患者さんたちの療養の質向上が図られますことをお祈り申し上げます。お祝いの言葉に代えさせていただきます。

今後の展望

15周年を迎えこれから16年、20周年へと活動を進めてまいります。

指定難病の疾患数も更に24疾患が追加され、330疾患となります。今後も増えていくでしょう。相談員は、疾患の知識においても、相談スキルにおいても向上を怠らず、支援については、全てをアンビシャスで解決しようとするのではなく、例えば、就労であればハローワークなどの専門機関と上手く連携を取りつつ、利用者である難病患者さんの視点にたった支援を心がけてまいります。

災害対策としては、難病の中でも特に重篤な人工呼吸器を装着し在宅で過ごされている方への支援における課題が山積みです。災害の規模別の対応マニュアルや、発電機等に関わる機器の種類や特徴、実際の運用における注意点などを写真やイラストや動画などで、判り易くしたのをホーム

ページ等で公開していきたいと思えます。患者の災害時個別対応手順書などは、紙ベースで保管するように周知されているのですが、更にクラウドにも保管し、すぐに利用出来るような仕組みが「えんぽーと」で実現しているので、その活動を広げることで、災害に強い体制を整えていきたいです。

えんぽーとQRコード*



メンタルヘルス対策としては、難病と診断され動揺や不安で混乱する患者とその家族の精神的な負担を軽減することを目的に、難病を発症したという過度なストレスの初期対応について、気軽に読めるパンフレットや、DVDを製作し、広くの患者、ご家族の方々に浸透させていきたいです。もちろん、面談での相談が中心になりますし、精神的な症状が重い方は専門の医療機関など

へ通われるようにお勧め致します。

就労支援では、就労支援員の増員と各関係機関との連携の強化が必須です。難病を思いこれまでやってきた仕事を辞めてしまったり、自信を無くしているケースも少なくないので、その自信をつけてもらうべく、難病患者に特化した「福祉的就労事業所」の解説を計画しています。自宅からの通勤、他者との関わり方、そして自分の難病とのつきあい方を習得することで、仕事への自信がつき一般の就労へと結びつくと考えています。いっぽう、患者さんから困っているとの声は、「難病ではあるが、身体障害者では無いとの理由で障害者の最低雇用率にカウントされていない」との要望が強いです。難病であっても雇用率にカウントしてもらえよう、行政への要望を患者団体とも連携して訴えていくこともアンビシャスの役割だと

考えています。行政への要望に加え、企業への難病患者雇用に関する周知と理解を深めるために、会報誌で成功事例を紹介するなど、企画や活動が必要とも考え事業開設に向け準備を進めているところで

NPOとしての運営面では、行政の委託費だけに頼るのではなく、定期的な賛助会員（個人・法人）の拡大、募金や寄付金のご協力を皆さまにお願いしていきたいです。講演会を例にすると、講師の謝金、交通費、配布資料やDVDなどの消耗品費などに使われます。皆さまからのご支援に心から御礼を申し上げるとともに、これからも変わらぬご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

ご寄付・ご支援・ご協力
ありがとうございます。



Ambitious Transition



2002年(平成14年)

特定疾患
受給者数 4,789人

- ・アンビシャスNPO法人化(2月14日)
 - ・会報誌「アンビシャス」創刊
- 患者会数 2団体**

Photo

左上/設立総会 設立時の理事の皆様 右上/保健所来賓挨拶樋浜所長(当時)
左下/NPO先駆者ジル・ジョーダン女史初来日 右下/会報誌第1号



2003年(平成15年)

特定疾患
受給者数 4,892人

- ・全国難病センター研究会に参加
 - ・匿名希望の体験談、会報誌掲載開始
- 患者会数 3団体**

Photo

左上/保健所での講演会 右上/初期の首里城売店
左下/仲間理事とNPOの先進地豪州マレニー視察 右下/会報誌第14号



2004年(平成16年)

特定疾患
受給者数 5,007人

- ・難病患者との交流を求め会報誌体験談、顔出し開始
 - ・医療相談会開始
- 患者会数 3団体**

Photo

左上/患者会代表者の集い 右上/FOP渡久地優子さんとの出会い「難病指定」署名の依頼
左下/金城福則先生医療相談会 右下/会報誌第26号



2005年(平成17年)

特定疾患
受給者数 5,256人

- ・県から難病相談・支援センター委託事業開始
 - ・難病シンポジウム開催 ・沖縄指笛発売開始
- 患者会数 3団体**

Photo

左上 県の委託事業開始 右上/ALS橋本会長来沖
左下/ 県難病協議会参加 右下/ 会報誌第48号



2006年(平成18年)

特定疾患
受給者数 5,584人

- ・パーキンソン病・潰瘍性大腸炎問題
 - ・もやの会(もやもや病)発足
- 患者会数 5団体**

Photo

左上/もやの会設立 右上/ALS豊田実氏会報誌小嘶原稿担当
左下/難病外し問題 in国会議員会館 右上/会報誌第52号



2007年(平成19年)

特定疾患
受給者数 5,951人

- ・FOP(進行性骨化性繊維異形成症)難病指定
 - ・TV『ウチナー紀聞』放送 ・看護学生在宅実習受け入れ
 - ・VHO-net沖縄学習会開始 ・千羽鶴ボランティア開始
- 患者会数 5団体**

Photo

左上/FOPの全国交流会の様子 右上/看護学生在宅実習風景
左下/TV「ウチナー紀聞」 右上/会報誌第69号

アンビシャスの変遷

Ambitious Transition 2002-2013

Ambitious Transition



2008年(平成20年)

特定疾患
受給者数 **6,360人**

- ・日本ALS協会沖縄県支部設立 ・就業支援モデル事業受託
- ・照喜名通、沖縄コロニー大賞受賞
- ・会報誌音声版開始/ポットキャスト配信

患者会数 6団体

Photo

左上/日本ALS協会沖縄県支部設立 右上/就業支援モデル事業受託
左下/沖縄コロニー賞受賞式 右下/会報誌第79号



2009年(平成21年)

特定疾患
受給者数 **6,700人**

- ・難病雇用助成金開始 ・国税庁認定NPO法人として認定
- ・沖縄県にて全国難病センター研究会開催
- ・ウォークランフェスタで「南でも苦を楽」賞受賞

患者会数 6団体

Photo

左上/全国難病センター研究会in沖縄 右上/ウォークランフェスタでの受賞式の様子
左下/沖縄初の国税庁認定NPO決定時の記者会見の様子 右下/会報誌第92号



2010年(平成22年)

特定疾患
受給者数 **6,967人**

- ・会報誌メールマガジン配信開始
- ・障害者差別禁止条例制定の運動開始
- ・祝会報誌100号

患者会数 8団体

Photo

左上/アステラス製薬助成研修会 右上/滝沢氏(脊髄小脳変性症)、在宅でアンビシャスHP製作開始
左下/差別禁止条例制定運動 右下/会報誌第102号



2011年(平成23年)

特定疾患
受給者数 **7,479人**

- ・総務省委託えんばーと(遠隔医療支援システム)スタート
- ・筋無力症友の会 沖縄県支部設立

患者会数 11団体

Photo

左上/筋無力症友の会設立 右上/災害時電源確保事業開始
左下/総務省委託えんばーと(遠隔医療支援システム)スタート 右下/会報誌第108号



2012年(平成24年)

特定疾患
受給者数 **7,978人**

- ・2月14日 法人設立満10周年
- ・日本網膜色素変性症協会沖縄支部設立
- ・会報誌Vol.124号(9月号)より12頁へ増量リニューアル

患者会数 13団体

Photo

左上/日本網膜色素変性症協会沖縄支部設立 右上/多発性硬化症医療講演会(MSキャビン共催)
左下/意思伝達(コミュニケーション支援)事業開始 右上/会報誌第122号



2013年(平成25年)

特定疾患
受給者数 **8,371人**

- ・災害時電源確保県委託事業(発電機設置等)
- ・難病が障害範囲に追加される

患者会数 12団体

Photo

左上/意思伝達研修会の様子 右上/西原町へ入院時ヘルパー派遣陳情(ALS協会連名)
左下/難病制度が法制化へ向けての説明会 右上/会報誌第140号

アンビシャスの変遷

Ambitious Transition 2014

平成26年 平成26年度は、難病にとって歴史的な1年でした。昭和47年に難病の医療費助成に関わる制度がスモンという疾患から始まり、その後、医療費助成の対象疾患が拡大されていき、最終的に56疾患でした。公平で安定的な難病対策を確立する目的で「難病の患者に対する医療等に関する法律」が平成26年4月22日に衆議院本会議で可決成立されました。

難病の法律が施行

制度から法律となり、国の医療費助成の予算不足を都道府県で補っていた負担分も国で財源を確保できるようになりました。対象疾患は110疾患からスタートすることになり、制定から僅か9か月後には施行されるといって過密スケジュールで、国も詳細を明らかにしない事もあり、不安ばかりがつのる時期でした。法律施行に伴う対象疾患数の拡大で相談件数の増加が予測されたことから、アンビシャスの相談支援活動を評価して頂き、委託金額の増額が認められました。11月に新たな難病相談員を採用、相談員2名体制でこれまで以上に細やかな相談体制が整いました。



法律施行目前の講演会

平成27年1月1日施行に向けて、事前に12月には県薬務疾病対策課から、「難病の新たな医療費助成制度の概要」と「実施に当たっての必要な手続き」の細やかな注意点をなどを説明してもらいました。約300名余りの方が参加した講演会ではまた、北海道在住の日本難病・疾病団体協議会 代表理事（当時）の伊藤たてお氏による「難病法と社会の役割」と題し、法律制定に当たり患者団体が当事者として積極的に関わってきた経緯や意義について等の貴重なお話を頂きました。



会報誌のカラー化

『難病情報誌アンビシャス』の表紙は、難病を持つ患者が顔を公表して表紙を飾っていたが、これまでは体験談なのですが、これまではモノクロ印刷だったので、執筆者の様子や伝わりにくいのが現状でした。米国婦人福祉協会(AWWA)様の多額なご寄付を頂き表紙のカラー印刷が実現でき笑顔や表情が鮮やかお伝えできるようになりました。ありがとうございます。



	患者	家族	その他	計
電話	184人	101人	225人	510人
面接	53人	5人	16人	74人
メール	26人	7人	36人	69人
その他	21人	17人	29人	67人
計	284人	130人	306人	720人

患者会数 **12団体**

特定疾患
受給者数 **8,722人**

平成26年度相談者別、相談件数が多い疾患	相談件数
患者	
1 その他*	33件
2 後縦靭帯骨化症	31件
3 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	18件
3 多発性硬化症	18件
5 クローン病	16件
家族	
1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	38件
2 その他*	29件
3 多系統萎縮症(シャイドレーガー症候群)	7件
4 脊髄小脳変性症	6件
4 パーキンソン病・強皮症	各6件
その他	
1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	141件
2 その他*	30件
2 難病全般	30件
4 黄色靭帯骨化症	12件
5 後縦靭帯骨化症	10件

*疾患名の「その他」は、難治性疾患克服研究事業の対象疾患(130疾患)以外の疾患全て

Ambitious Transition



この機器はクラウド・ファンディングで支援者を募り107人の方から約240万円の援助を賜り導入することが出来ました。改めて御礼申し上げます。導入以来、貸出し希望者が途切れません。



患者団体支援
保健所と連携し、患者とその家族の集いの設立をお手伝いし、新たに2団体がスタートしました。これですべての患者団体・交流会は14団体となりました。アンビシャス設立当初の患者会は2団体だったので、ある程度の成果はあげているのですが、患者会の質的な向上を目指して、「患者団体、顔の見える関係づくり」を開催しました。各団体の特徴を知り、課題を持ち寄り、解決に向けて向上できる環境を整えることを目的としています。



加藤眞三先生による市民公開講座「患者の力」実施
難病情報誌アンビシャスの特集記事で「患者の力」を寄稿いただいている慶応義塾大学看護医療学部教授の加藤眞三先生を沖繩にお招きし「患者には力がある」をテーマにご講演頂きました。この公演から患者自身が本来持っている力を阻害しているのは、患者自身の思い込みや医療者の無神経な接し方によるものが多く「患者は弱い存在である」という固定観念にあると学びました。加藤先生の講演会の後からは相談をうける際にも、「患者は本来、力を持っている、今は力が無いと思っ込んでいただけ」と呪文が解けることを信じて接しています。

	患者	家族	その他	計
電話	313人	73人	260人	646人
面接	34人	6人	15人	55人
メール	26人	3人	64人	93人
その他	15人	13人	13人	41人
計	388人	95人	352人	835人

患者会数 14団体

指定難病受給者数 9,814人

患者	件数
1 原発性胆汁性肝硬変	68件
2 全身性エリテマトーデス	34件
3 慢性血栓性肺高血圧症	28件
4 クローン病	26件
5 低ホスファターゼ症	21件
家族	件数
1 筋萎縮性側索硬化症	42件
2 クローン病	5件
3 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く)	3件
3 後縦靭帯骨化症	3件
4 ミトコンドリア病・好酸球性消化管疾患 他	2件
その他	件数
1 筋萎縮性側索硬化症	107件
2 原発性胆汁性肝硬変	23件
3 後縦靭帯骨化症	18件
4 多系統萎縮症	16件
5 特発性拡張型心筋症	7件

平成27年 平成27年1月1日に110疾患で法律が施行され、同年7月1日には疾患数が306疾患まで拡大されました。以前より、小児慢性特定疾患など、児童福祉法における医療費助成では、成人になると助成制度が利用できなくなるといった問題が小児の患者会などから挙がっており、その問題を解決するように新たに追加になった疾患は小児からの疾患が多いと感じました。対象疾患がこれまで56疾患から比ると約5倍となり、追加された疾患を持つ患者さんからの相談も増えつつあります。

アンビシャスの変遷 Ambitious Transition 2015

Ambitious Transition



アンビシヤスの変遷

Ambitious Transition 2016

平成28年 難病法が施行され2年が経ちました。制度から法律になって助成対象者が広がる一方で、患者さんの自己負担額が増加することに対して「経過措置」という移行に伴う急激な変化のないようにと3年間の優遇があります。これが来年で終了するため、今から準備しないといけない「自己負担上限額管理票」の記載漏れが無いように患者さんや病院などへの周知が課題となっています。

難病患者就労支援

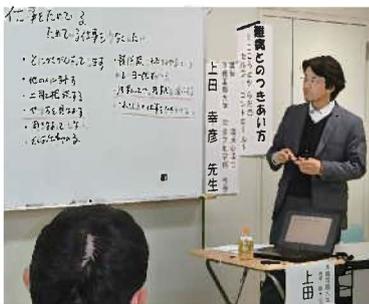
ハローワークに「難病患者就職サポーター」が配置され、毎月1回はアンビシヤスでの出張相談会を実施しています。各専門施設と連携することで、より質の高い相談と支援が整うのですが、就職した後に上手く定着しているのか等の継続的支援までは人員が不足しているため、充分な対応ができていない現状があります。今後就労支援員の増員をすることで、就労支援の数と質の向上に努めます。

災害時情報共有

各保健所は難病に関する法律で「連絡協議会」の開催が義務となりました。各地域での課題を当事者や関係者と共有し解決へと目指して行くものです。優先度が高いのが災害対策です。日常で準備しておくこと、災害時に予測されること、行政の公助の把握と限界、患者家族の自助の力の向上に向けての課題など、すぐには解決出来ない課題が山積しています。アンビシヤスの役割としては、非常時と各家庭での予行演習などの援助を実施しています。災害対策として、災害時の援助に必要な情報を紙ベースで保管するようにしているのですが、クラウド上でも保管するようにと指針が出されているので、沖縄ではアンビシヤスの運営する「えんぽーと」に登録し、運用を開始しています。人工呼吸器業者や保健所の協力を得て「えんぽーと」の利用者を広げています。

メンタルヘルス

難病を抱え、精神的にかなりのダメージを負って相談に来られる場合も少なくなく、私達では手におえないケースもあります。なるべく、重症化しない軽症の段階でこころの応急処置が出来ないだろうか、と、「難病とのつきあい方」こころとからだのセルフ・コントロール」を沖繩国際大学教授 臨床心理士 上田幸彦先生のご協力を賜り実施しました。今後、時間が合わずに参加出来なかった方など向けとして、冊子や映像で多くの方々に役立つツール作りを目指しています。



難病相談支援センター相談件数		患者	家族	その他	計
	電話	295人	95人	405人	795人
	面接	38人	11人	24人	73人
	メール	36人	5人	140人	181人
	その他	26人	16人	21人	63人
	計	395人	127人	590人	1,112人

※数字は平成28年4月～平成29年2月末日まで

患者会数 17団体

指定難病
受給者数 平成29年夏頃公表予定

平成28年度相談者別、相談件数が多い疾患	患者	1 原発性胆汁性肝硬変	50件
		2 低ホスファターゼ症	29件
		2 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	29件
		4 ベーチェット病	23件
		5 特発性拡張型心筋症・サルコイドーシス	各19件
	家族	1 筋萎縮性側索硬化症	63件
		2 パーキンソン病	8件
		3 クロウン病	7件
		4 家族性地中海熱	4件
		5 ベーチェット病	3件
	その他	1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	125件
		2 原発性胆汁性肝硬変	24件
		3 多系統萎縮症	12件
		4 クロウン病	12件
		5 特発性拡張型心筋症	10件

※数字は平成28年4月～平成29年2月末日まで

医療従事者の方々からのご支援・ご協力

難病専門医師 セカンドオピオン 医療相談会

難病は希少疾患であるがゆえ、正しい病気の知識を得ることが難しく、外来で説明告知されても、時間的制限もあり、よく判らないものです。また、難病を受け入れることが出来ず、主治医の説明に納得がいけない場合もあります。そんな課題を解決しようと、第二の意見(セカンドオピオン)医療相談会を開催しています。各先生方に病状と聞きたい事を事前にヒアリングした内容をお伝えし、一組30分間ゆっくり落ち着いた環境で、疑問点などを聞いていただいています。参加した方からは「今服用している薬で良かった。」「はっきりしなかったことが納得出来た。」との感想を得ている重要な事業です。



首里城下町クリニック第二
院長 比嘉 啓先生



社会医療法人 仁愛会
浦添総合病院
医師 金城 福則先生



琉球大学附属病院 第三内科
医師 当山 裕一郎先生



琉球大学附属病院 第三内科
医師 新里 朋子先生

医療介護連携協力など

難病の中でも神経難病は重症化することが多く、その支援も医療や介護などの多職種が連携して取り組まなければならず、課題は山積みです。そんな状況打破を目指し、研修会や協働などで支援の質の向上を強化しています。



国立病院機構
沖縄病院
脳・神経・筋疾患
研究センター
センター長
諏訪園 秀吾先生

メンタルヘルズ相談会など

製薬会社株式会社ファイザーの支援する、患者会リーダーの集いV H O n e t ではピアサポートカウンセリング技法などの助言や患者自らのこころのセルフ・コントロールにより、心の病にならないように協力してもらっています。



沖縄国際大学
総合文化学部
教授(博士)
臨床心理士
上田 幸彦先生

みなさまからの支援・ご協力

15年間で多大なご寄付支援をいただきました。みなさまのご支援が実りとなり、ここまで成長することができました。改めて深く感謝申し上げます。



みなさまのおかげで15周年、多くの笑顔と希望を支えることができました。

これからもより多くの笑顔と希望を発展させてまいります。

個人支援件数…1,458名 法人支援件数…614社

ご寄付・ご支援者 計 **2,072** 件 平成14年設立より15年間の延べ件数です。

T T-SHIRT-YA.COM

Tシャツ屋

検索

300アイテムを越す
沖縄デザインTシャツ販売中!



国際通り店

久茂地店

北谷店

イオンモール沖縄ライカム店



オリジナルTシャツやっています!

Tシャツつくるなら www.opf.jp
オリジナルTシャツ・ポロシャツ・シャツ・etc...

Tシャツ アイテム

検索

株式会社 **アイアム** ☎ 098-860-3222

ホームページのことなら
アイアム

Iam Design Network Corporation

098-860-6226

株式会社アイアムネットワーク事業部
〒900-0002
沖縄県那覇市曙1-20-20

豊富な実績



design
network
www.iamdn.co.jp

上質な品質

安心の製品・サポート

みんなの笑顔を見たいから

麦飯石の水では
「地域の皆様に愛され、
信頼される」企業を目指し、
安心・安全・おいしい商品をお届けしたいと考えております。

ぼく はん せき みず
麦飯石の水

「清涼飲料水製造業」沖縄中央保健所営業許可第200602455号

お客様センター

☎098-876-3154

配達地域:うるま市以南全域

☎AM10:00~PM8:00

<http://bhs-mizu.jp>

通常価格 ■店頭...648円(税込)
(19ℓ) ■配達...1,080円(税込)

★ウォーターサーバーレンタル
保証金・メンテナンス全て無料!

国際医療施設認証(JCI)認定を受けました

医療法人 沖縄徳洲会

 **南部徳洲会病院**

年中無休 24時間オープン

理事長 鈴木 隆夫 院長 赤崎 満

八重瀬町字外間171番地1 TEL (098)998-3221(代)

<https://www.nantoku.org>

**交通事故 相続 離婚
借金問題 B型肝炎給付金**

「相談して良かった」という声を多数頂いております!!



代表社員弁護士 岡野 浩巳

ご相談は
何度でも
無料

個人のお客様のみとさせていただきます。

フリーダイヤル
0120-55-7840

～明日のためにできること、今あなたとともに。～
弁護士 法人 **岡野法律事務所**

本社 那覇市 安本 良太 / 佐藤 俊 / 林 大貴 / 下地 寛隆
[沖縄弁護士会所属]

〒900-0023 沖縄県那覇市楚辺1丁目5番17号 プロフェスビル那覇3階
<http://www.okano-okinawa.jp/> 岡野法律事務所 沖縄 検索

「地域と医療を結ぶ」

 医療機器・医療材料の販売、修理
株式会社 **沖縄三和メディカル**

〒901-2223

沖縄県宜野湾市大山7丁目9番13号

電話 098-942-9876

FAX 098-898-5551

E-mail sanwa-md@southernx.ne.jp

<http://sanwa-md.sakura.ne.jp/>



株式会社アクティブ



停電・緊急時の防災用低圧ガス発電機の総代理店

矢崎エナジーシステム株式会社

代表取締役社長 矢崎 航
東京都港区三田1-4-28
TEL.03-3455-5611

有限会社沖縄矢崎販売

代表取締役社長 西園 義弘
浦添市城間1-12-8
TEL.098-878-0859



呼吸器・消化器・神経内科疾患の
診断から治療はお任せください。

診療科：呼吸器内科、呼吸器外科、神経内科、
消化器内科、消化器外科、整形外科、緩和医療科

◎各種ドックも受け付けています◎
独立行政法人 国立病院機構



沖縄病院



TEL:098-898-2121

沖縄県宜野湾市我如古3-20-14

場所 高速道路西原インターを出て普天間方面へ 詳しくは
我如古交差点西原方向・宜野湾市民図書館 近く



腎臓病、高血圧症、リウマチ・膠原病
糖尿病、循環器疾患、その他内科一般
血液透析(外来)

医師 田名 毅・比嘉 啓

第一クリニック 第二クリニック
TEL098-885-5000 TEL098-833-1001
FAX098-885-5007 FAX098-833-1006

ホームページURL <http://www.shuri-jc.jp/>

—よい住まいづくりに奉仕する—



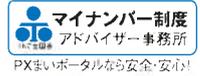
GREEN HOME

株式会社 長堂材木店

代表取締役 長堂 昌太郎

901-2204
沖縄県宜野湾市上原2丁目5番6号

TEL:098-893-1414
FAX:098-892-5786
HP:www.nagado.jp



大城税理士事務所 株式会社アイディー

認定経営革新等支援機関

所長 税理士 大城 逸子
Oshiro Itsuko

〒901-2227 沖縄県宜野湾市字宇地泊251番地
Tel:098-890-2280 Fax:098-890-2281
E-mail:itsuko.oshiro@tkcnf.or.jp



医療法人 おもと会 訪問リハビリテーション

40名のスタッフで細やかなサービスをお届けします。
0歳から100歳以上の方、みなさんが対象です。
ご自宅で「一緒に」あなたらしい生活を目指します!

意思伝達装置の練習
家でできる運動の紹介 トイレやシャワーの練習
便利な福祉用具の選定と練習
外出の練習など生活に必要なリハビリです。

大浜第一病院訪問リハビリテーションセンターあめくの杜
☎866-3357(担:末吉)
クリニック安里 訪問リハビリテーションセンター
☎869-5835(担:上原)
大浜第二病院 訪問リハビリ
☎851-0103(担:糸山)
訪問リハビリぎのわんおもと園 ☎898-1070(担:高嶺)
統括訪問リハビリテーション科 ☎851-0015(担:宇田)

SWM 世界の医療情報をお届けする。 SOUTH WEST MEDICAL INTELLIGENCE

南西医療器株式会社

本社 : 〒901-2133浦添市城間4-2-10 Tel:098-870-1515
SWM-INTELLIGENCE CENTER
: 〒901-2133浦添市城間4-10-7 Tel:098-870-0505
宮古営業所 : 〒906-0012宮古島市平良字西里975-4我如古マンション102
Tel:0980-74-2265
八重山営業所: 〒907-0004石垣市登野城59 5-5 1階
Tel:0980-84-3737
RCふくおか : 〒812-0013福岡市博多区博多駅東2-18-30
八重洲博多ビル507 Tel:092-433-7585
熊本営業所 : 〒862-0954熊本市中央区神水1丁目25番7号
パワービル301 Tel:096-285-5811
鹿児島営業所: 〒890-0054鹿児島市荒田1丁目33-17
カシータ・荒田1階 Tel:099-230-7950

アンビシャスの Partner

首里城公園内売店"笑店"
の運営は(株)パートナー



地域の元気な印刷屋さん

パンフレット/リーフレット/ポスター/チラシ
記念誌/事業報告書/伝票/封筒/案内状

有限会社 ダイヤプリント

〒901-0146 沖縄県那覇市具志2丁目28番17号
TEL.098-858-0909 FAX.098-859-0999

E-mail:diaprint@gold.ocn.ne.jp



Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは世界中で新薬の研究開発に取り組んでいます。
画期的な新薬の創出に加え、特許が切れた後も大切に長く使われている
医療用医薬品を医療の現場にお届けしています。

ファイザー www.pfizer.co.jp